

## 追加情報

本書は、SNC-RZ30Nの操作と設定に関する追加情報を記載しています。本機をご使用になる際は、付属の設置説明書、およびCD-ROMに収められているユーザーガイドとともにご覧ください。  
( )内のページは、ユーザーガイドのページを示しています。

### 設定ページ全般について

- 設定ページで、Welcome textやe-mail addressなど、コンピューターから入力する文字に、全角文字や半角カタカナは使用しないでください。
- 設定ページで設定を変更した場合は、10秒以上経過してからカメラの電源を切ってください。すぐに電源を切ると、変更した設定内容が保存されない場合があります。
- Area setting設定ページや動体検知機能(Activity detection)設定ページを表示すると、メインビューアーページに表示される画像サイズがしばらくの間変わることがあります。異常ではありません。

### FTPクライアント機能(29ページ)/ SMTP機能(34ページ)/ イメージメモリー機能(38ページ)をお使いの場合

カメラをデスクトップでご使用のときは、上下反転した静止画像が送信/記録されます。

### FTPクライアント機能のPeriodical sending(30ページ)/ イメージメモリー機能のPeriodical recording(39ページ)をお使いの場合

画像サイズやネットワーク環境、ATAメモリーカードの記録条件などにより、実際に送信/記録される間隔は、設定された間隔より長くなる場合があります。

### セキュリティ機能(25ページ)をお使いの場合

アクセス制限を[Deny(拒否)]に設定されたIPアドレスのコンピューターからでも、表示される認証画面で[Level4]のアクセス権に設定したユーザー名とパスワードを入力すると、カメラにアクセスすることができます。この場合、ActiveX viewerでは画像を表示できません。他のビューアーをお使いになるか、アクセス制限を[Allow(許可)]に変更してください。

### Exclusive control mode機能(18ページ)をお使いの場合

- Exclusive control mode機能をお使いのときは、ブラウザのCookie設定を「有効」にしてお使いください。Cookie設定を「無効」にすると、Exclusive control mode機能は使用できません。
- Exclusive control mode機能の設定を変更したときは、変更内容を反映させるために、ブラウザの[更新]をクリックしてください。

### 動体検知機能(Activity detection)(43ページ)をお使いの場合

動体検知機能(Activity detection)をお使いのときは、あらかじめ動作テストを行い、正常に動作することを確認してからお使いください。

また、以下の場合、動体検知機能が正常に動作しないことがあります。

- Camera settingページのStabilizer(手ブレ補正)を[On]に設定しているとき
- Camera settingページのDay/Night機能をお使いのとき
- Camera settingページでカメラの設定変更を行っているとき
- Camera settingページのFocus modeを[Auto](オートフォーカス)に設定しているとき
- ズームを望遠側(ズームイン)に操作しているとき
- 被写体が暗いとき
- カメラが設置された場所が不安定で、カメラが振動するとき

### ATAメモリーカードの取り外しについて

ATAメモリーカードにデータを記録中にATAメモリーカードを取り外したり、カメラの電源を切らないでください。記録されているデータが消えたり壊れたりすることがあります。

ATAメモリーカードを取り外したり、カメラの電源を切るときは、以下の設定をしてください。

- FTPサーバー機能をOFFにする(32ページ)
- イメージメモリー機能をOFFにする(38ページ)

### カメラのパンチルト駆動部の取り扱いについて

カメラのパンチルト駆動部分には無理な力を加えたり、障害物を置いたりしないでください。故障の原因となります。万一、駆動部分に力を加えて動作に不具合が発生した場合は、カメラの電源を入れ直してください。カメラの電源を入れ直しても直らないときは、お買い上げ店またはソニーの業務用製品ご相談窓口にご相談ください。

### コンピューターでウイルス対策ソフトウェアをお使いの場合

- コンピューターでウイルス対策ソフトウェアをお使いの場合、画像表示のフレームレートが低下するなど、カメラのパフォーマンスが低下する場合があります。
- 本機にアクセスしたときに表示されるWebページにはJavaスクリプトを使用しています。ご使用になるコンピューターでウイルス対策ソフトウェアをお使いの場合には、ページが正しく表示されない場合があります。

### Netscapeをお使いの場合

#### • 動作が不安定な場合

画像が表示されないなど、動作が不安定になる場合には、お使いのコンピューターを再起動してください。

### • Server push viewerについて

Server push viewerをお使いの場合、画像表示が停止することがあります。この場合、ブラウザの[更新]をクリックすることで、再び画像を表示することができます。

### • Java Plug-inのバージョンについて

コンピューターにインストールされているJava Plug-inのバージョンが、以下に示したバージョンと同じであることをご確認ください。もし異なる場合は、既にインストールされているJava Plug-inをアンインストールして、以下のバージョンをインストールしてください。

Java Plug-in Ver. 1.3.1\_02、Ver. 1.3.1\_03、Ver. 1.4.0、Ver. 1.4.0\_01

### Java Plug-inのバージョンを確認するには

Windowsの[スタート]ボタン-[設定]-[コントロールパネル]の順に選択するとバージョンが表示されます。

### Java Plug-inをインストールするには

ユーザーガイドの9ページ「Java applet viewer」をご覧ください。

### ActiveX viewerをお使いの場合

- Windows NT4.0またはWindows 98をお使いで、画像を表示できない場合は、付属のCD-ROMに収録されている、MFC42DLL Version Up Toolをインストールしてください。
- Internet Explorerのローカルエリアネットワーク(LAN)の設定を自動設定にすると、画像が表示されない場合があります。この場合は自動設定を使用不可にして手動でプロキシサーバーを設定してください。プロキシサーバーの設定については、ネットワーク管理者にご相談ください。

(裏面へ続く)

# SNMP設定方法について

本機は、SNMP(Simple Network Management Protocol)をサポートしています。SNMPマネージャーソフトウェアなどのソフトウェアを使用して、MIB-2オブジェクトの読み出しや一部のMIB-2オブジェクトの書き込みが可能です。また、トラップとして、電源投入時および再起動時に発生させるcoldStartトラップ、SNMPの不正アクセスが発生した場合に通知するAuthentication failureトラップをサポートしています。

また、本機は、CGIコマンドを使ってコミュニティ名やアクセス元の制限設定、読み書き権限設定、トラップ先のホスト設定、一部のMIB-2オブジェクトの設定を行うことができます。これらの設定を行うには Level 4(設定メニューを開くための権限)の認証を経る必要があります。

## 1. 問い合わせコマンド

以下のCGIコマンドでSNMP Agentの設定情報を確認できます。

```
<メソッド>
  GET, POST
<コマンド>
  http://ip_adr/snmpdconf/inquiry.cgi?inqjs=snmp
  (JavaScriptパラメータ形式)
  http://ip_adr/snmpdconf/inquiry.cgi?inq=snmp
  (通常の形式)
```

上記の問い合わせによって、以下の設定情報を取得できます。ここでは inqjs=snmp(JavaScriptパラメータ形式)で問い合わせ情報を取得した場合の設定情報について説明します。

```
var sysDescr="¥"SONY Network Camera SNC-RZ30
¥"
... ①
var sysObjectID="1.3.6.1.4.1.122.8501"
... ②
var sysLocation="¥"¥"
... ③
var sysContact="¥"¥"
... ④
var sysName="¥"¥"
... ⑤
var snmpEnableAuthenTraps="1"
... ⑥
var community="public,0.0.0.0,read,1"
... ⑦
var community="private,192.168.0.101,write,2" ... ⑧
var trap="public,192.168.0.101,1"
... ⑨
```

① mib-2.system.sysDescr.0 のインスタンスが記されます。これについては変更することはできません。

② mib-2.system.sysObjectID.0 のインスタンスが記されます。これについても変更することはできません。

③ mib-2.system.sysLocation.0 のインスタンスが記されます。この製品の設置場所に関する情報を記述するフィールドです。工場出荷時は何も設定されていません。

④ mib-2.system.sysContact.0 のインスタンスが記されます。この製品の管理者に関する情報を記述するフィールドです。工場出荷時には何も設定されていません。

⑤ mib-2.system.sysName.0 のインスタンスが記されます。この製品の管理対象ノードを記述するフィールドです。工場出荷時には何も設定されていません。

⑥ mib-2.snmp.snmpEnableAuthenTraps.0 のインスタンスが記されます。この例では 1(enable)が設定されており、Authentication failureが発生した場合にはトラップが発生することになります。

2(disable)が設定されている場合には Authentication failure トラップは発生しません。

⑦ コミュニティ名、および読み書き属性の設定情報が記されています。この例の場合には ID=1 という識別番号で、"public" というコミュニティ名で IP アドレスを問わず(0.0.0.0)、read(読み出し)が可能となるように設定されています。

⑧ ⑦と同様にコミュニティ名、および読み書き属性の設定情報が記されています。この例の場合には ID=2 という識別番号で、"private" というコミュニティ名で IP アドレス 192.168.0.101 のホストからのSNMP要求パケットに対して、read/write(読み書き)が可能となるように設定されています。

⑨ トラップ先のホスト名が記されています。この例の場合には ID=1 という識別番号で、"public" というコミュニティ名で IP アドレス 192.168.0.101 のホストに対してトラップが送信されるように設定されています。

## 2. 設定コマンド

SNMPに関する設定コマンドは以下のような形でサポートされています。

<メソッド>

GET, POST

<コマンド>

http://ip\_adr/snmpdconf/snmpdconf.cgi ?
<parameter>=<value>&<parameter>=...&...

まず、以下のパラメータを使用して設定を行います。

1) sysLocation=<string>

mib-2.system.sysLocation.0 のインスタンスを <string> で表わされる文字列に設定します。 <string> の長さは最大255文字です。

2) sysContact=<string>

mib-2.system.sysContact.0 のインスタンスを <string> で表わされる文字列に設定します。 <string> の長さは最大255文字です。

3) sysName=<string>

mib-2.system.sysName.0 のインスタンスを <string> で表わされる文字列に設定します。 <string> の長さは最大255文字です。

4) enaAuthTraps=<value>

mib-2.snmp.snmpEnableAuthenTraps.0 のインスタンスの値を設定します。 <value> には 1(enable) または 2(disable) のいずれかを入力します。

5) community=<ID>, <rwAttr>, <communityName>, <IpAddressString>

コミュニティ名、および読み書き属性の設定を行います。 <ID> は設定の識別番号(1~8のいずれか)、<rwAttr> は読み書き属性を表わす1文字("r"、"R"、"w"、"W"のいずれか)、<communityName> は設定するコミュニティ名、<IpAddressString> はアクセスを許可するホストのIPアドレスを記述します(任意のホストに許可する場合には 0.0.0.0 とします)。

例: 識別番号 2 に "private" というコミュニティ名で任意のホストにread/writeを許可する

community=2,w,private,0.0.0.0

6) trap=<ID>, <communityName>, <IpAddressString>

トラップ送信先のホストを設定します。 <ID> は設定の識別番号(1~8のいずれか)、<communityName> はトラップ送信時のコミュニティ名、<IpAddressString> はトラップ送信するホストのIPアドレスを設定します。

例: 識別番号1に "public" というコミュニティ名でのトラップ送信先を設定する。

trap=1,public,196.168.0.101

7) delcommunity=<ID>

既に設定されているコミュニティ設定を削除する場合に使用します。 <ID> は既に設定されている community 設定の識別番号(1~8のいずれか)です。

8) deltrap=<ID>

既に設定されているトラップ送信先のホスト設定を削除する場合に使用します。 <ID> は既に設定されている trap 設定の識別番号(1~8のいずれか)です。

上記 1)~8)のパラメータを使用して SNMP 設定情報の変更が完了したら、問い合わせコマンドを使用して設定変更情報を確認します。変更した設定でなければ次のCGIコマンドを使用してSNMPを再起動させます。この際、本機は再起動動作を行いますのでご注意ください。

## SNMP再起動コマンド

<メソッド>

GET, POST

<コマンド>

http://ip\_adr/snmpdconf/snmpdconf.cgi?snmpd=
restart